

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年10月3日

【評価実施概要】

事業所番号	2298400017
法人名	株式会社オハナ
事業所名	日ノ岡グループホーム
所在地 (電話番号)	湖西市岡崎2254-2 (電話) 053-573-2254
評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成20年5月14日

【情報提供票より】(20年 4月 28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 5月 24日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	10人, 非常勤 7人, 常勤換算 11.8人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(4月 28日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	9 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 82.3 歳	最低	60 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	はなまこ病院 榛名医院 鈴木歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

湖西市に開設された初めてのホームである。近辺に郵便局や商店・学校や医院等があり、暮らしやすい環境にある。広い庭には、花壇や畑があり、犬が飼われている。また、建物は平屋建てのため、出入りがしやすい。管理者を始めとして、職員・利用者の生き生きとした明るい笑顔に迎えられて、一目で対応の良さが汲み取れる。開設まもなく運営推進会議を開催し、ホームの課題を挙げ、協力・理解を依頼し、地域との共存を基盤においている。職員は系列のホームで研鑽を積んで、利用者との繋がりを重視している。毎月の介護教室の開催・認知症サポーター講座の開催など市に協力し、地域の情報発信場所としての役割も果たし実践している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	平成19年5月24日の開設で今回が初めての外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義について管理者をはじめ職員が良く理解し、全員で取り組んでいる。日頃の介護を振り返ると共に、グループホームのあるべき姿を理解し、日々の介護に活かす姿勢が見られる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	開設1年にして3回の運営推進会議を重ねている。3ヶ月ごとに開催され、メンバーとして、市長寿介護課職員、自治会長、民生委員、老人クラブ・家族・利用者代表、ホーム職員が招集されている。運営推進会議の意義、進め方、運営についての質疑応答、近況報告などを議題に掲げ活発な意見交換・質疑応答がされ、記録を記載している。地域情報を得られたり、ホームの取り組みに対する理解を深めている。市と協力し認知症に対する情報発信場所として積極的に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日々の様子を写した写真を掲載し、個別コメントを添えた日ノ岡便りを毎月家族に送付し、家族の安心を得ている。家族会は食事を共にしながら年2回開催され、家族の意見を伺う良い機会となっている。電話や面会時には気軽に声をかけ、家族に状況を伝えながら意見に真摯に対応している。代表者直通の鍵のある意見箱が設置され、事業所全体でより良いホームづくりをする方向性が伺える。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	設立前からホームが地域に受け入れられるよう丁寧に働きかけが行われ、地域住民と日常的な付き合いが出来る関係にある。毎日の犬を連れての散歩、買い物などで顔見知りとなり、野菜や草花をもらったりと良い関係作りが構築されている。また、子供との交流・高校生のボランティア活動・夏祭り・認知症に対する啓発や相談活動を積極的に展開し、利用者の生活の広がりに結び付けている。管理者が地元出身であるため、地域の人的資源の結びつきも大きな要素となっている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの人生が輝くように地域とのつながりの中で人としての尊厳を大切に、役割を持ちながら穏やかに暮らしていけるように理念を掲げ、日常生活と切り離さない支援に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は常に理念に基づいたケアの指導を行い、職員は意識しながら共に行動し利用者理解に努めている。具体的ケアについてミーティングで統一を図り、利用者の目線から捉えることに心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者が設立前から地域との関係作りに努め、自治会・老人会に加入し情報収集を行い、行事に参加したり夏祭りに招待している。高校生ボランティア、子供の訪問を受け入れており、人の出入りが多い。認知症サポーター講座や、折込みチラシを入れて募集する毎月の介護教室など、地域の相談所として積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員が評価の意義と狙いをよく理解し、内部研修を行い評価項目をグループホームのあるべき姿と捉え、日々の介護を振り返り支援していこうとする様子が見られる。評価結果について具体的に活用していこうとする姿勢が見られる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	設立時から3ヶ月に一度の開催が定着している。運営推進会議の意義や進め方を伝え、ホームの状況・近況・介護教室開催などの情報を伝えて質疑応答をし、理解を深めている。地域情報を収集し、利用者へのサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者がキャラバンメイトであり、認知症サポーター講座講師を務めたり、ホーム主催で毎月開催している介護教室など、市と共に認知症に対する理解が深められるように取り組み、情報発信やサービスについて広報を行うなどの取り組みをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用者の様子を写した写真を満載したホーム便りを発行し、個別コメントを添えて様子を伝え、イベントの家族参加も促している。サービス利用明細書と共に、立て替え金の明細も家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年2回の家族会(8割出席)の開催、代表者直通の鍵のある意見箱の設置、運営推進会議への家族の出席など、意見を伺う機会を多く設け運営に反映している。電話や面会時には気軽に声をかけることによって関係作りに努め、家族等から意見を引き出している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全職員が正社員であり、職員の異動は少ない。職員の働く環境作りに努め、職員の離職について分析し、仕事を継続できるような取り組みを行っている。ユニットは平屋作りでつながり、職員・利用者の移動が可能であり、職員の異動によるダメージを防ぐ配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を積極的に促し、資格取得の推進をしている。毎月の勉強会・ユニット毎のケース会議においても研修に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会で交流があるほか、以前勤務していた病院のOB同士で交流があり情報交換している。また、実習生を受け入れることで相互学習の機会としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談や電話での問い合わせに家族の状況や希望をよく聞き、ホームとしてできることを説明している。見学を促し必要に応じて併設デイサービスの体験利用で馴染みとなったり、体験入居して様子を見ることも出来る。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に行動することによって、利用者の表情や動きから思いを汲み取るように努めている。利用者自身が自発的・主体的に生き生きとできるよう支援している。利用者と共に行うことは学びも多く、支えあう関係ができると考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の思いや希望、今までの暮らし方などから情報収集しており、センター方式に書き込むことにより共有し、意向に沿った支援をしている。入浴時や、夜安眠できない時等、1対1になる時をコミュニケーションがとれる好機と捉え、思いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月全員出席で行われる職員会議内で、ケース会議を行い意見交換し、計画の評価・変更を行っている。家族から面会時に情報を訊きながら希望を引き出し、ケアプランに取り入れてる。また、介護計画を家族会や面会時に説明し、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年毎に介護計画の更新をしているが、期間内での状態の変化についてはモニタリングをしながら書き加えるとともに、6ヶ月未満で見直しを行い、次回のプラン変更活かしている。また、日常生活の記録が明確で見やすい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じて、墓参りや理美容院・かかりつけ医への通院、帰宅など個別に支援している。毎月の外食、年1回の一泊旅行などホーム独自の取り組みを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医院はあるが、家族や利用者の希望によりかかりつけ医院での受診の支援を行っており、現在、医院への通院支援を行っている。また、受診結果は家族に報告し、情報の共有に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に、ホームにおける健康管理と医療について説明があり、健康管理・医療対応確認票を取り交わし、家族等に理解と協力をお願いしている。急変時や終末期での対応をスタッフ全員で確認し方針を共有している。状態の変化に応じて方針について更新し、話し合いを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の権利と尊厳を意識し、声掛けや対応に配慮しており、記録の取り扱いに気をつけている。特にホーム便りの写真の掲載について利用者・家族の意向に留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者と共に行動しながら状況を把握し、負担にならないように配慮しながら、草取り・畑仕事・飼い犬の世話・家事(炊事・洗濯・掃除)など本人のペースで行っている。散歩や買い物、物品の受け渡しに共に出かけるなどの種々の機会を捉え、活動的に過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者も参加し、週4回の昼食以外の食事をホームで手作りしている。菜園で収穫した野菜や頂いた野菜を取り入れて、利用者の食べたい物や季節の物を職員と一緒に手作りしている。また毎月2回の外食も利用者の楽しみとなっている。	○	今後は、全食事をホームで手作りすることを計画しているため、更に利用者の希望を取り入れ、食事の楽しみを共に味わうことを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日で入浴できる体制をとっているが、介助が必要でない利用者は毎日いつでも入浴できるよう対応している。	○	介助が必要な利用者も、希望に応じ、毎日入浴できる体制づくりを期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式を利用したアセスメントがされており、一人ひとりの生活歴を把握し、食器拭き、洗濯物たたみ、野菜作り、カラオケや習字、折り紙、脳リハ計算など利用者毎の楽しみごとが出来るように見守っている。行事は、毎月の外食、年1回の一泊旅行などがあり、楽しみのある生活ができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調を考慮し、広い庭に出て畑で野菜作りや草取り、草花の手入れ、犬との散歩、買い物、外食、ドライブ、遠足、年1回の一泊旅行など積極的に戸外の生活を楽しめるよう支援している。外出時は、お小遣いを職員が見守りで付いて、使ってもらう等の個別対応を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を全員がよく理解しており、玄関はもとより門扉の施錠はしていない。事務室が2ユニットの中心にあり、室内にいても居間・庭・門が見渡せるので見守りがなされ、外出傾向は察知されその方にあった対応をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員の連携をとりながら、防災訓練を年2回行っている。緊急時対応はリーダーの下、実施できるよう日頃から心がけられている。	○	運営推進会議で災害時への地域協力を働きかけ、地域との協力体制づくりに努められたい。又、地域で行われる防災訓練に利用者と共に参加し、双方向での支援作りの構築を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量・水分量をチェック表に記録し、情報を共有している。体調や状況によりおやつや捕食でカバーしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の大きな窓から庭の花や畑が見渡せ、外にいる人や飼っている犬・飛び交う燕が見られ、季節を感じる風や光にあふれており、居心地のよい場所となっている。広くゆったりとして、視線を遮るコーナーもあり寛げる。浴室・トイレなども利用者にとって、使いやすい構造となっており、日常の暮らしが実感できるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の壁には、写真や手作りの物が飾られてはいるが、全体的に持ち込まれる私物が少ない。	○	家族に働きかけて、今までの生活で馴染んだ物がすぐ手に取れ、更に居心地の良い居室となるように働きかけを期待する。